町民が安心して　安全に暮らすために

東京電力㈱廣瀬社長に要望書を提出

平成27年8月20日に東京電力㈱本店へ出向き、原子力発電所の安全かつ着実な廃炉や原子力損害賠償への対応などの要望書を廣瀬社長に提出しました。

いまだ多くの町民が厳しく辛い避難生活を続けている現状を訴え、要望書の内容を確実に対応するよう、遠藤町長と共に要望しました。

議員からは、町民が安心して生活ができるよう支援を求めるなど、町民が安全に安心して生活ができるよう活発な意見が相次ぎました。

東京電力㈱への要望前に、復興庁との意見交換を行い、平成28年度以降の復興財源の確実な確保や、JR常磐線の早期全線復旧、常磐自動車道の4車線化など復興への取り組みについて話し合われました。

復興への対応について意見交換（復興庁）

【東京電力㈱に提出した要望書】

1　福島第一原子力発電所等の安全対策の徹底と着実な廃炉、適時適切な情報提供について

事故は収束していないという認識の下、原発事故の収束作業と福島第二原子力発電所を含めた廃炉への取り組みを安全かつ着実に進めること。

特に、凍土遮水壁や多核種除去設備などの運用については、技術的課題解決や安全性の確保を図った上で確実に取り組むこと。

また、中長期ロードマップに基づく取り組みの進捗状況や今後の取り組みを住民に分かりやすく説明し、不安の解消に努めること。

さらに、廃炉までのステップや詳細な内容、作業等を推進する上での課題など、ステップ別を始め地震・津波が再び起こった場合のリスクを詳細かつ分かりやすく示すこと。

2　石炭ガス化複合発電（IGCC）設備の建設促進について

当町に立地する広野火力発電所構内に計画を進めている世界最新鋭50万KW級石炭ガス化複合発電設備につきましては、双葉地方における早期の雇用、経済効果の創出、高効率発電のインフラ輸出による世界のCO_2削減への貢献、更には、クリーンコール分野で福島が世界を牽引していく拠点となることを世界にアピールする意味で、早期に諸課題を解決し、2020年までに竣工すること。

3　廃炉作業従事者の宿舎等の計画的な整備について

町民と廃炉作業の従事者が、共に安全に安心して生活ができる環境を整えるため、町の意向を踏まえつつ、宿舎等の乱立を防止するため、元請負業者に対し、居住環境に配慮した宿舎等の整備を指導すること。

4　確実かつ実情に即した原子力損害賠償への対応について

福島第一原子力発電所事故に関する損害賠償については、昨年5月22日に双葉地方町村会として貴社に対して要請したところであるが、実態は一向に進展していない。さらに、政府与党による復興加速化のための第5次提言により、地域間の賠償格差が更に拡大することから、賠償格差の是正や生活再建、事業再建のための損害賠償の確実な実施を責任をもって対応すること。

5　将来を担う人材育成に対する支援について

当町では、国内外で活躍できるサッカー人材を育成・輩出するような先進的な取り組みを進めており、Jヴィレッジを代表としたスポーツをテーマとする地域振興を展開してきたが、今回の震災を機に、人材は流失するとともに、スポーツ振興の拠点等は施設が利用できない状況にある。

当町が再びスポーツによる地域振興ができるよう、2020年夏季オリンピック及びパラリンピック競技大会の日本開催と併せ、本大会の事前合宿をJヴィレッジへ誘致できるよう、施設の再開を始め当該地域のスポーツ振興について全面的に支援を行うこと。